

平成29年6月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 菅 原 琢 哉

そ う せ い 宇 佐 見 康 人

市 民 ク ラ ブ 安 井 誠 悦

公 明 党 成 沢 淳 子

社 会 ・ 市 民 連 合 藤 枝 隆 博

秋 水 会 田 中 勉

秋 水 会 佐 藤 宏 悦

秋 水 会 赤 坂 光 一

1 目指すべき秋田市の姿について

(1) 少子化対策と目指す人口規模の都市づくりについて

ア 県市が連携して少子化対策に取り組むべきではないか

イ 市長は今後、何十万人の都市として秋田市のまちづくりを考えているのか

2 中核市への権限移譲について

(1) 本市において見直すべき税源移譲の具体は何か

3 ローカル・アベノミクスについて

(1) 国の成長戦略による全国20カ所のスタジアム・アリーナ整備地域に、本市も加わるよう取り組むべきではないか

(2) スタジアム整備について市はどの程度関与するのか、また、県市連携で多用途スタジアムとして商業施設と一体型のドームを検討するべきではないか

(3) ビッグデータの活用による情報連携と生産性向上のための本市農業施策はどうか

4 危機管理体制について

(1) リスクマネジメントとその教育や訓練、事業継続計画について、市民に信頼される体制になっているのか、また、ソーシャル・ネットワーキング・サービスによる情報爆発への備えは万全であるのか

5 観光文化について

(1) 全国市区町村観光パンフレットの人気ランキングによる「ゆらら」の順位をどのようにとらえているのか、また、観光PRの基本的な考え方についてはどうか

(2) 知事は、クルーズ船の観光客向けの列車運行を竿燈まつりの時期に

合わせて検討しているとのことであるが、竿燈まつりを開催する市としてどのようにかかわるのか

(3) 平成30年度全日本広告連盟秋田大会の開催に向けた本市の負担と役割について

(4) 今年度本市で開催予定の全国産業教育フェアについて、本市はどの程度関与するのか

(5) 千秋美術館の動員記録を持つ草間彌生コレクションを、芸術文化ゾーンに誘致するべきと思うがどうか

6 国民健康保険について

(1) 保険者努力支援制度の全国ランキングで、秋田県は最下位となっているが、トップの新潟県と比べて何が劣っており、市としてどうすれば最下位から脱却できると考えているのか、また、交付金の見込み額はどうか

7 秋田ゆかりの佐竹商店街について

(1) 久保田藩主の江戸屋敷跡地で発展した佐竹商店街と本市のかかわりはどうか、また、最後の市長訪問はいつで、だれだったのか、そして、今後の訪問予定はどうか

(2) 同商店街を第2の東京事務所として、本市のPRに一役買ってもらうべきではないか

(3) 市庁舎内の市民ホールや展示ホール等に、同商店街の紹介スペースを設けるべきではないか

8 千秋文庫について

(1) 千秋文庫と本市のかかわりはどうか、共同企画展や本市のパンフレットを置いてもらうなど、相互交流を深めるべきではないのか

(2) 千秋文庫の資料を佐竹史料館に常設展示し、その志を広く市民に示すべきと思うがどうか、また、旧県立美術館に佐竹史料館と千秋文庫を併設してはどうか

9 教育について

- (1) 小学校教師の漢字の採点基準の違いをどのように把握しているのか、また、とめ・はね・はらいについてどのように考えて指導しているのか
- (2) 習字や絵画授業においては、使用した道具の後片づけまでが授業と考えるが、そのまま家庭に持ち帰らせている現状についてはどうか
- (3) 部活動指導員の現状と、今後の採用や配置予定についてはどうか
- (4) 教育ITソリューションEXPOについてどのように評価しているのか、また、同イベントに参加しない理由と今後の参加予定についてはどうか
- (5) 学習指導要領改訂に伴う小学校外国語教育とプログラミング教育について、その方針と準備はどうか

10 少年消防団について

- (1) 本市に少年消防団や少年消防クラブがないのはなぜか、また、今後の考え方についてはどうか

11 地域の諸課題について

- (1) 都市計画道路大浜上新城線の今後の見通しについて

1 市長公約について

(1) 産業の育成・支援と雇用の創出について

ア 本市人口の社会減が続いている要因をどう考えているのか

イ 人材の市外流出を防ぐため、高校、大学等の卒業後の転出者に対し、就職先及び進学先の調査を行うべきと考えるがどうか

ウ 企業誘致とともに、人材育成の観点から若者が県外に出て行かなくても学ぶことができるよう、新たな分野の専門学校の誘致も検討すべきと思うがどうか

エ 中小企業や個人事業者等の後継者不足による廃業、事業承継についての現状認識はどうか、また、今後の対応についてどのように考えているのか

(2) 子どもを生き育てやすい環境づくりについて

ア 第2子に加え、第1子保育料無償化制度の創設を掲げているが、制度の詳細はどうか、また、その財源をどのように考えているのか

イ 年間を通した待機児童ゼロに向けた取り組みとして、施設受け入れ枠の拡大のほか、特に待機児童の多い3歳未満児が対象となる小規模保育の拡充を図るべきと思うがどうか

ウ 子育て世代の生の声を聞いて施策に反映させていくため、（仮称）パパママ座談会を開催するべきと思うがどうか

エ 親子が均一料金でバスを利用することができる、（仮称）親子コインバスの導入を検討してはどうか

(3) 高齢者に優しいエイジフレンドリーシティの実現について

ア 高齢者コインバス事業の対象年齢を満68歳から満65歳に引き下げる前に、同事業が高齢者の生きがいづくりに寄与しているのかどうか、成果について詳細に検証、分析することが必要であると思うがどうか

(4) 芸術・文化・スポーツによるまちづくりについて

ア 市長が考える「芸術」、「文化」の定義とはどういうものか

イ 後世に残す「芸術」、「文化」とは何か

ウ 新スタジアムの整備に関し、検討会に参加するとのことであるが、既存市営施設の再整備は考えていないのか

(5) 安全・安心なまちづくりについて

ア 泉・外旭川新駅（仮称）の設置について

(ア) 新駅設置の費用が当初の想定より高くなっている理由は何か

(イ) 新駅を設置する前に、新駅設置による利便性の向上等のメリットを明確にした上で、その必要性を示すべきではないか

2 市政における若者に対する情報発信の充実について

(1) 市長の記者会見をインターネットを通じてライブ配信するなど、若者に対して市政への関心を高めていく方策を講じてはどうか

3 環境立市の確立について

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で授与されるメダルを使用済み小型家電から抽出された金属から製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に本市も参加しているが、さらに金属の回収を進めることができるような取り組みは考えていないのか

4 地域経済分析システム（RESAS）の活用について

(1) 本市の観光振興に向けた方策の一つとして、同システムを活用した観光施策の提案コンテストを開催すべきと思うがどうか

(2) 行政運営全般においても、同システムを積極的に活用すべきと考えるがどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 任期3期目に当たり、これまでの流れと大きく変わるような施策を考えているのか、また、特に重要と考えている施策は何か、そして、それに向かう意気込みはどうか
- (2) 対立候補と相反した市長公約について、選挙の結果を受けて、すべて市民の合意を得たと考えているのか
- (3) 4月の市長選挙で、多くの市議会議員が応援したことや、東京都議会議員選挙での都知事の関与など、二元代表制である地方首長選挙及び議員選挙における、首長と議員のあるべき関係をどう考えているのか

2 財政運営について

- (1) 健全化判断比率について、数値が基準以上にはなっていないということだけで、本市の財政は健全であると判断してよいのか
- (2) 平成29年度当初予算を基礎とした中・長期財政見通しは、これまでと大きく変わったところはあるのか、また、今後の課題とそれに対する対応策はどうか
- (3) 臨時財政対策債についての認識はどうか
- (4) 固定資産税について
 - ア 公的土地評価の一元化・適正化のため、地価公示価格の7割評価を見直すよう、本県の宅地評価員として県の固定資産評価審議会などで進言すべきではないか
 - イ 中心市街地活性化やコンパクトシティ構想など、市街化調整区域との差別化を図る施策を進めていることにかんがみ、都市計画税を導入する考えはないか

3 環境問題について

- (1) 安心・安全な水資源の確保について

ア 水循環基本法第5条に規定される地方公共団体の責務として、水の恵沢を将来にわたって享受できるよう、また、健全な水循環が維持されるよう、どのような地域の特性に応じた施策が実施されているのか

イ 水道水の水源である雄物川の流域自治体間で、どのような連携や推進が図られているのか

(2) 循環型社会を目指したごみの減量について

ア 本市の家庭ごみの中で約半分を占める生ごみの減量のためには、どのような方策があるのか、また、今後どのような取り組みを進めていくのか

イ 生ごみの水切りによって、廃棄物処理における負荷は、どの程度軽減されるのか

4 ふるさと納税について

(1) 寄附額に対する返礼品の調達価格の割合を3割以下にするようにとの国の通知を受け、本市の対応はどうか

(2) ふるさと納税の仕組みに対して、継続すべき成熟した制度と考えているのか

5 中心市街地の活性化について

(1) 秋田駅前北第一地区市街地再開発事業について、個人施行ではあるものの、中心市街地活性化に資するよう、事業を進めるために本市としてできることはないか、また、事業が進んでいないことに関連して、本市の負担になっていることはないか

6 生きる支援としての自殺対策について

(1) 本市で自殺対策に携わる民間団体のネットワークが構築されようとしているが、本市の自殺対策ネットワーク会議との関連性をどうとらえ、今後どのように活用していく考えか、また、その新たなネットワーク組織に対して何らかの支援をしていく考えはないか

(2) 改正自殺対策基本法で新たに策定が義務づけられた自殺対策計画の進捗状況はどうか

7 新スタジアム整備について

(1) 市長公約に掲げた新スタジアムの整備について、市長が考えるスタジアムとはどのようなものか

(2) 新スタジアム整備は、知事との共同公約であったが、県・市が連携して整備する考えなのか、また、知事とは何をどこまで協議したのか

(3) 県が設置する新スタジアム整備の検討会へ参加することをもって、公約実現とするのではなく、ホームタウンとして主体的かつ積極的に参加し、市長の任期中の整備を目指す考えはないか

(4) 国の成長戦略にあるスタジアム・アリーナ改革を、新スタジアム整備に活用することはできないか

1 人口減少対策について

(1) 具体的な事業と予算について

ア 人口減少に歯どめをかけるには、子供を産み育てる環境整備と雇用の創出等の産業振興に重点的に取り組む必要があると考えるが、平成29年度の具体的な事業とそれに伴う予算をどう編成したのか

(2) 組織体制の整備について

ア 人口減少対策には、部局横断的な対応が求められることから、人口減少対策に特化した組織体制を整える必要があると考えるがどうか

(3) 結婚に踏み出せない若者の増加について

ア 本県では、男性の生涯未婚率が全国平均を上回るなど、さまざまな要因で結婚に踏み出せない若者が増加傾向にあると見られているが、本市の現状をどのように分析し、どのように対応しようとしているのか

(4) 結婚、出産及び子育て支援について

ア ふたりの出会い応援事業（シングルズカフェ秋田）の実効性を高めるために、事業内容の見直しや、あきた結婚支援センターの登録料を全額助成するなど県とのさらなる連携が必要と考えるが、同事業の検証と今後の展望はどうか

イ 結婚という人生の一つの節目において、婚姻届の提出に当たり、今後も本市に住み続けたい、あるいは本市に転入したいと感じてもらえるような、本市独自のアイデアを生かした取り組みを考えるべきと思うがどうか

ウ 結婚新生活支援事業費補助金を活用し、新婚世帯に対して住宅取得費や引っ越し費用、家賃の一部を助成するなどの住宅支援制度を創設してはどうか

エ 子育て世帯の負担を軽減するため、子育て関連手続を市役所の窓口ではなく、オンライン上で行えるマイナポータルの活用について

検討してはどうか

オ 次世代育成支援対策推進法が施行され、企業における仕事と子育ての両立支援が進められているが、本市における取り組み状況はどうか

(5) 子供の貧困対策について

ア 関係機関や支援団体等の拡充をするとともに、具体的な事業の実施を早期に進めるべきと考えるがどうか

(6) 待機児童対策について

ア 本市における事業所内保育の課題と対応はどうか

イ 年度途中に入所できない待機児童の解消に向けて、平成28年度に保育士人材バンクを立ち上げ、保育士の確保に取り組んでいるが、課題と対応はどうか

ウ 保育の質の維持や向上を図るため、保育士の給与面などの処遇改善を本市独自に実施し、離職の防止やキャリアアップにつなげてはどうか

エ 保育補助者雇上強化事業を活用して、保育補助者を確保し、保育の担い手のすそ野を広げ、保育士の負担軽減と離職防止につなげてはどうか、また、保育施設が保育補助者の研修や資格取得のための補助を行っている場合、当該施設に対して助成すべきと考えるがどうか

(7) 雇用の質の向上について

ア アンダー35正社員化促進事業で、若年者の非正規雇用者の正規雇用への転換を企業に働きかけるなど、安定した質の高い雇用の拡大を目指しているが、人口減少を抑制するためには、さらなる取り組みの強化が必要と思うがどうか

2 観光振興による地域経済の活性化について

(1) 北前船寄港地・船主集落の日本遺産認定や土崎神明社祭の曳山行事のユネスコ無形文化遺産登録等により、県内外や国外からの交流人口の増加が見込まれるが、観光振興による地域経済活性化にどう取り組

むのか

- (2) 北前船ゆかりの文化財や積み荷とともに、各地から本市に伝えられた祭り、民謡、食文化など、今なお存在する地域資源を調査・発掘し、市民や観光客に対して十分な情報提供ができるよう、体制を整えてはどうか
- (3) 秋田港は、今後、物流だけではなく、クルーズ船寄港の増加なども見込まれることから、利便性の高い観光動線を形成するために、主要地方道秋田港線の整備を早急に進めるべきと考えるがどうか
- (4) 秋田港のさらなる活性化に向けて、同港と秋田自動車道とのアクセスの利便性向上は欠かせないことから、平成9年度に都市計画決定された大浜上新城線の整備を早期に進めるべきと考えるがどうか
- (5) J R 東日本秋田支社と県が検討している、秋田港駅と土崎駅間の列車運行について、本市としても支援すべきと思うがどうか
- (6) 秋田市観光myタクシーの利用状況はどうか、また、どのような課題があるのか

3 市民サービスの向上について

- (1) 全国のコンビニエンスストアで、各種証明書を交付するサービスを実施してはどうか
- (2) 個人番号カードの取得率向上にどのように取り組んでいくのか

4 教育問題について

- (1) 就学援助について
 - ア 新入学児童生徒学用品費について、小学校入学前の支給を早急に実施すべきと考えるがどうか、また、修学旅行費や宿泊を伴う校外活動費の事前支給を実施してはどうか
- (2) 教職員の勤務時間等の労働実態及び働き方改革について
 - ア 本市における教職員の勤務時間等の労働実態はどのようになっているのか
 - イ 文部科学省では、学校現場における業務改善が一層推進されるよ

う学校業務改善アドバイザーを教育委員会に派遣する事業を実施しているが、教育現場の働き方改革に本市はどのように取り組んでいるのか

(3) 図書館サービスの向上について

ア 駐車場の混雑解消や小さい子供連れでも気兼ねなく利用できるよう、防音や独立したスペースの確保などを求める声の子育て世代から上がっているが、こうした声にどのように対応していくのか

イ 本を借りるに当たり、ノロウイルスなど衛生面に不安があるといった声があるが、多くの方に気持ちよく利用してもらう環境づくりの一環として書籍消毒器を導入してはどうか

5 臨時福祉給付金について

(1) 平成28年度の臨時福祉給付金の支給状況はどうなっているのか

1 市長の政治姿勢について

(1) 3期目の所信について

ア 多くの有権者の負託を受け、引き続き市政のかじ取り役を担うに当たっての新たな決意はどうか

イ 市長の考えや施策の方向性とは異なる意見に対してどう向き合い、理解を得ていこうとしているのか

ウ 市長公約については、今後の本市を取り巻く環境や情勢の変化によって、軌道修正することもあり得ると思うがどうか

(2) 共謀罪（テロ等準備罪）法について

ア 市民の自由と民主主義を脅かし、権力の恣意的監視下に置こうとする同法の国会審議の状況及び同法に対する市長の認識はどうか

イ 同法の成立が市民生活に及ぼす影響と「監視社会」に対する市長の認識はどうか

2 秋田公立美術大学との連携について

(1) 同大学の景観デザインの考え方を、アートや防災の視点からも本市のまちづくりに取り込んでいく考えはないか

(2) 千秋公園再整備基本計画の策定に当たり、同大学と連携していく考えはないか

(3) 新屋駅前通りのデザイン構想の研究の成果を新屋地区のまちづくりにどのように生かしていくのか

3 秋田市地域防災計画について

(1) 本市と民間企業等との協定締結の状況はどのようになっているのか、また、大規模災害時における連絡体制等の具体についてはどうか

(2) 大規模災害時における指揮命令系統の確認と職員の意識向上のため、秋田市業務継続計画を意識した防災訓練を実施すべきではないか

4 JR貨物秋田港線の利活用について

- (1) 秋田港駅と土崎駅との間におけるクルーズ船の観光客向けの列車運行の実現は、本市の観光誘客に寄与すると考えているのか
- (2) 同列車運行に係る県とJR東日本秋田支社との調整の中で、本市に費用負担を求められることとなった場合、それに応じるのか

5 北前船寄港地・船主集落の日本遺産認定について

- (1) 日本遺産認定を受け、今後、本市における構成文化財をどのように体系づけ、それを生かした観光振興施策をどう展開していくのか
- (2) 経済・観光・文化などの各分野において、北前船寄港地に関係する自治体との連携を強化し、相互の発展を目指していくべきと思うがどうか
- (3) 日本遺産認定を契機に資料館等を設置する考えはないか
- (4) 学芸員との連携により、北前船の魅力を発信できる観光ボランティアガイドの育成に力を入れていく考えはないか

6 家庭ごみ処理手数料について

- (1) 市民の協力によりごみの減量が進んでいるが、現在の減量目標を達成した際には手数料を減額または無料化すべきではないか

7 市立図書館のあり方について

- (1) 本市における図書館の将来像をどのようにイメージしているのか、また、図書館としての市民サービスはどうあるべきと考えているのか
- (2) 図書館における図書等の出版物の貸し出しと電子情報の提供についてどのように考えているのか、また、電子情報を提供する目的で設置しているパソコンの使用状況及び使用に当たっての課題とその対策についてはどうか
- (3) 建てかえを含む図書館の老朽化対策についてはどのようにになっているのか
- (4) 学校図書館とはどのように連携しているのか

- (5) 司書の育成や適正配置、処遇改善についてどのように考えているのか
- (6) 今後、図書館において指定管理者制度を導入する予定はあるのか
- (7) 図書館におけるPDCAサイクルの実施状況についてどのようになっているのか

1 市長公約の実現について

(1) 雇用の拡大による若者の地元定着の促進について

ア 本市の現在の雇用情勢をどのように分析しているのか、また、雇用の拡大による若者の地元定着に具体的にどのように取り組んでいくのか

イ アンダー35正社員化促進事業の3カ年で1,200人を正規雇用にするという目標を達成するため、今後、同事業をどのように進めていくのか

ウ 首都圏に進学した学生を秋田に呼び戻すためには移住相談センターの果たすべき役割は重要であるが、今後の取り組みをどのように考えているのか

(2) 子どもを生き育てやすい環境づくりについて

ア 保育需要等について

(ア) 子供の減少に伴い定員割れする保育所が出てくるのが想定されるが、今後の保育需要をどのように見込み、どのように対応しようとしているのか

(イ) 公立保育所が大幅に定員割れしている現実をどう認識し、その理由についてどう考えているのか、また、今後の対応はどうか

イ 子供の貧困対策と給付型奨学金制度の創設について

(ア) 生活困窮者学習支援事業の取り組み状況と高校進学の実績はどのようなになっているのか、また、同事業の実施に当たり訪問型とするなど改善する考えはないのか

(イ) 給付型奨学金制度の創設に当たり、その財源として「きずなでホットしていききた寄附金」や、企業や個人からも寄附金を募るなど市民全体で支える制度とし、早期実現を図るべきと考えるかどうか

(3) 高齢者に優しいエイジフレンドリーシティの実現について

ア エイジフレンドリーシティについて

(ア) エイジフレンドリーシティ構想を多くの市民が知らない現状をどう認識し、その理由についてどう考えているのか、また、今後どのように周知していくのか

(イ) 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画にある領域別施策は全庁横断的に進めていくとしているが、どのように取り組むのか

(ウ) 本市のエイジフレンドリーシティの最終的な姿を、どのようにイメージしているのか

イ 秋田市版CCRCについて

(ア) 他の地域のCCRCとの違いを含め、本市のCCRCのアピールポイントは何か

ウ 障がい者にやさしい共生社会実現のための条例制定について

(ア) 同条例の制定に当たり、どのような手順で進めていくのか

(イ) 共生社会実現のため、一般市民から広く意見を聞くとしているが、どのような工夫や配慮をするのか

エ 地域包括支援センターの体制強化と見守り活動の充実及び高齢者福祉の課題について

(ア) 地域包括ケアの領域は拡大してきており、同センターの体制強化が急がれるが、市として同センターの基幹となる組織を立ち上げる考えはないか

(イ) 特別養護老人ホームの入所待機者が約1,000人いる現状をどう認識し、今後の待機者数の増減をどのように推計しているのか

(ウ) 平成27年度に定員70人の広域型特別養護老人ホームが開所したが、同規模の施設を開所した場合、次期料金改定に際し1人当たりの介護保険料への影響はどうか

(エ) 平成18年の都市計画法の改正により、市街化調整区域における社会福祉施設についても開発許可が必要とされることとなったが、今後、特別養護老人ホーム等の老朽化による建てかえが想定されることから、エイジフレンドリーシティを標榜する自治体として、規制緩和について検討する考えはないか

(オ) 第9次秋田市高齢者プランの策定に当たり、市民の介護ニーズをどのように集約するのか、また、第8次の計画策定時と今とでは高齢者を取り巻く環境にどのような変化が生じていると考えているのか、さらに、老朽化した特別養護老人ホームの改築整備について、どのように考えているのか

オ 公共交通体系のあり方等について

(ア) 高齢者人口や免許返納者がふえる状況を踏まえ、高齢者が利用しやすい公共交通体系のあり方について、どのように考えているのか

(イ) 本市のバス交通は、秋田駅を中心として放射状に形成されているが、多核集約型の都市構造を目指すのであれば、市内各地区に乗り継ぎ拠点を整備した上で路線を見直し、市民の利便性の向上を図るべきではないか、また、その実現のためには、今後の市と秋田中央交通株式会社との関係は、どうあるべきと考えているのか

(ウ) 本市の公共交通体系を構築するためには、電車とバスだけでは限界があると考えることから、タクシーを含めるべきではないか

(エ) 交通系ICカードの導入やICTを活用した運行状況の情報提供の実施時期について、どのように考えているのか

2 障がい者福祉の課題等について

(1) 第5次秋田市障がい者プランの策定に当たり、障がい者のニーズをどのように集約するのか、また、第4次の計画策定時と今とでは障がい者を取り巻く環境にどのような変化が生じていると考えているのか

(2) 療育手帳Bを所持している65歳以上の障がい者についても、障がい児・者福祉医療制度の対象にする考えはないか

(3) 障害者就労施設等からの物品等の調達方針は、各部局にどのように周知されているのか、また、調達状況の推移はどうなっているのか、さらに、今後の推進への取り組みについて、どのように考えているのか

(4) 社会福祉法人が物品の入札に参加できない理由は何か

3 契約業務について

(1) 契約課以外の課所室で取り扱う契約等について、秋田市公契約基本条例第3条に定める基本方針を踏まえ、どのように必要な施策を実施しているのか

(2) 契約業務に携わる職員の情報収集能力や分析能力を向上させるため、どのような指導や研修を行っているのか、また、参考見積もりを徴するに当たり、どのような点に留意しているのか

4 市民協働による除排雪について

(1) 秋田市ゆき総合対策基本計画を策定したときのように、毎年市民の要望をできるだけ多く確認し、除排雪の実施に反映すべきと思うが、どのように取り組んでいくのか

(2) 除排雪の契約を市、業者及び町内会長の三者で締結し、住民の意見を直接業者に伝えることができる仕組みを構築すべきではないか

(3) 道路除排雪車両運行管理システムでは除雪車の現在地を確認できるが、市民が欲しい情報はその後の除雪の予定であることから、同システムを改修するとともに、町内会長等の携帯電話や自宅のパソコンに情報提供することは考えられないか

5 市立秋田総合病院の整備について

(1) 本市の今後の高齢化の進展や人口減少、また将来的な医療技術の高度化等にかんがみれば、新病院の規模や機能、傾注すべき医療分野はどうあるべきと考えているのか

(2) 現地での建てかえに際し、市民の利用のしやすさに、どのような配慮をするのか、また、川元松丘街区公園の活用の見通しはどうか

1 市長の選挙公約について

(1) 産業の育成・支援と雇用の創出について

ア 秋田で仕事がしたいと思える雇用の創出に向けた、具体的なビジョンをどのように描いているのか

イ 秋田市農業ブランドをどのようにして産業の育成や若く有能な人材が活躍できる農業の実現に結びつけていくのか

(2) 子どもを生き育てやすい環境づくりについて

ア 第1子保育料無償化制度の創設に当たり、対象範囲、対象人数及び実施時期をどのように想定しているのか

イ 同制度を創設した際の予算規模はどの程度となり、その財源をどのように捻出するのか

ウ 現状でも人材が不足している保育士の補充や育成について、どのように取り組んでいくのか

エ 男性保育士の採用の現状はどうか、また、保育士不足解消に向けて、これまで以上に男性保育士の活用を図る考えはないか

(3) 高齢者に優しいエイジフレンドリーシティの実現について

ア 高齢者コインバス事業の対象年齢引き下げに伴う利用者及び経費の増をどのように想定しているのか、また、将来に与えるメリット及びデメリットをどのように考えているのか

イ 高齢者コインバス事業の対象年齢の引き下げについては、65歳はまだ若すぎる感もあるため、さまざまな角度からのさらなる議論が必要と思うがどうか

(4) 芸術・文化・スポーツによるまちづくりについて

ア 県・市連携文化施設の整備について

(ア) 県・市が連携することによるメリット及びデメリットは何か

(イ) 議会から要望のあった秋田和洋女子高等学校敷地と同施設との一体的な活用について対応案を取りまとめるに当たり、どのような議論がなされたのか

(ウ) 文化会館の解体については市民の理解が十分得られていないことから、市民に見える形でのしっかりとした説明を、これまで以上に実施すべきと思うがどうか

イ 新たなスタジアムの整備促進等について

(ア) 新たなスタジアムの整備促進に向けた「検討会」にはどのような姿勢で臨むのか

(イ) 地域運動広場の整備についても検討すべきではないか

(5) 市民協働と人づくりについて

ア 地域づくり交付金「若者枠」の具体的な内容と周知についてどのように考えているのか

(6) 行財政改革・市民サービスの向上について

ア 秋田市公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の適正管理とは、どのような施設が対象となるのか、また、どのようにして具体的に推し進め、効果を検証するのか

イ 本庁舎内への郵便局施設の設置を働きかける考えはないか

2 東南部地域の墓地の整備等について

(1) 同地域における今後の墓地の需要についてどのように認識しているのか

(2) 同地域に市営墓地を建設する予定はないか

(3) 市営墓地の将来像をどのように考えているのか、また、多様化する墓地への市民ニーズにどのようにこたえていくのか

3 農業の6次産業化について

(1) 本市の6次産業化の推進に向けて、県とどのように情報共有をしているのか

(2) 秋田県農業公社の6次産業化サポートセンター及び同センターのプランナーとどのように連携しているのか、また、今後のあり方についての本市の考えはどうか

(3) 園芸振興センターの加工研修室で作成された試作品の実績と現状は

どうか、また、それらの試作品に対して今後どのような支援をしていくのか

- (4) 秋田市農産加工品等販売促進協議会の取り組みはどうか
- (5) 6次産業化に取り組む実践者の現状はどうか
- (6) 営農に関する情報を豊富に持ち、農家との距離も近いJAが合併した後、どのように連携して6次産業化を推進していくのか
- (7) 本市の6次産業化の目指すべき姿は何か、また、そのための取り組みの改善点についてどのように考えているのか
- (8) 本市の6次産業化は、コンパクトな規模を目指すべきと思うがどうか

4 農業分野におけるドローンの利活用について

- (1) 農業分野におけるドローンの将来性をどのように認識しているのか
- (2) 本市の農業戦略として位置づけるべきと考えるがどうか
- (3) ドローン導入に対する助成金の支給を検討するべきではないか

5 秋田駅東第三地区土地区画整理事業及び千秋山崎線の地下道部（鉄道横断）について

- (1) 事業計画が変更されて5年近く経過した同事業の進捗状況について、どのように認識しているのか
- (2) 同地下道部整備の目的は何か、また、利用者及び利用目的をどのように想定しているのか
- (3) JR東日本株式会社との交渉は具体的にどこまで進んでいるのか
- (4) 将来的に人口減少が予想されている本市のまちづくりに、同地下道部はどのように位置づけられるのか
- (5) 同地下道部整備に係る予算規模はどの程度か、また、費用対効果を再度検証すべきではないか
- (6) 同地下道部整備の中止を含めた計画変更について検討すべきではないか、また、整備の必要性を市民に問うべきではないか

6 平成28年度包括外部監査について

- (1) 各業務のモニタリングに係る項目の多くで、独立的評価が実施されていない理由は何か
- (2) 独立的評価が行われていないとする意見についてどのように認識しているのか
- (3) 今後独立的評価を実施する予定はあるのか、また、実施に当たり課題はあるのか
- (4) 内部統制やリスク管理に関する理解が十分に浸透していない等の報告についてどのように認識しているのか
- (5) 同監査の指摘及び意見における現状での対応状況及び改善に向けた今後のスケジュールはどうか
- (6) 市として、同監査の報告書の内容についてどのように認識しているのか

7 市が出資している公益財団法人への関与について

- (1) 公益法人制度改革において新制度に移行した際に課題はなかったのか、また、その課題は解決されたのか
- (2) 新制度移行後の法人運営は適切に実施されているのか
- (3) 公益法人会計基準に基づく適切な運営に当たり、市としてどのように関与していくのか

1 人口減少について

- (1) 本県の人口が100万人を割ったことにより生じる本市への影響をどのようにとらえているのか
- (2) 県全体の人口が減少する中、人口や経済等の面で県全体に占める本市のウエートが大きくなっているが、本市は今後どのような役割を担っていくべきと考えているのか

2 基金について

- (1) 本市の財政調整基金及び減債基金の現状と今後の見通しはどうか
- (2) 政府の経済財政諮問会議において、地方自治体の各種基金の残高が増加していることに伴い、国と地方の財政資金の効率的配分について議論されているが、この状況をどのようにとらえているのか、また、今後の対応をどのように考えているのか

3 地域活性化の推進について

- (1) 地域おこし協力隊について
 - ア 地域おこし協力隊員の受け入れの目的は何か
 - イ 今年度の具体的な活動計画はどうか、また、隊員の提案をどのように取り入れているのか
 - ウ 隊員の任期満了時、あるいはその後の展望をどのように描いているのか
- (2) 地域住民によるまちづくりを支援する専門的人材の活用について
 - ア 地域住民によるまちづくりを支援するため、市職員の配置を含め、どのように取り組んでいるのか
 - イ 市民と市のまちづくりの取り組みを結びつける専門的人材として、まちづくりのアドバイザーを配置してはどうか
- (3) 市民協働事業提案制度の活用について
 - ア 同制度を活用した事業の実績及び今年度の実施状況はどうか、ま

た、同制度の市民への周知はどのように行っているのか

イ 採択された事業の継続性をどのように考えているのか、また、成果を上げている事業については市の事業とした上で委託するなど、事業継続に向けた支援が必要と考えるがどうか

(4) 木製ガードレールの設置について

ア 県産間伐材を使った木製ガードレールを観光施設の周辺等に設置してはどうか

4 農業振興等について

(1) 伝統野菜について

ア 伝統野菜を特産品として販売するなど、栽培や保存に力を入れるべきと思うがどうか

イ 撮影会に使われている秋田蒨の産地を観光ルートとするなど、伝統野菜を観光資源として活用してはどうか

(2) 秋田市農業ブランドの確立について

ア 今後、どのように市民を巻き込んで、農業のブランド化の浸透を図っていくのか、また、今後、ブランド化に取り組む生産者等への支援をどのように考えているのか

5 都市間交流について

(1) 郷土愛をはぐくむためにも、佐賀県武雄市と友好都市のような関係を築くことは考えられないか、また、戊辰戦争が始まった1868年から150年となる平成30年度に同市へ竿燈を派遣できないか

6 地域の諸課題について

(1) 長期未着手の都市計画道路及び土地区画整理事業について

ア 新屋地区における都市計画の見直し状況及び今後の取り組みはどうか

イ 現在、都市計画道路として計画されている場合でも、都市計画事業によらない環境整備を市が行うことはあるのか、また、その場合

の判断基準はどうか

(2) 秋田市新屋ガラス工房について

ア 同工房で行う地域交流や地域住民と連携した取り組みについて、その具体及び期待される効果はどうか、また、その取り組みを促進するため、同工房隣接地にある民間所有の井戸の水を初め、地域資源をどのように活用していくのか

イ まちづくり拠点施設として、ショップ及びカフェの運営をどのように考えているのか

ウ 新屋地区のまちづくりへの取り組みをこれから幅広く展開していくために、閉館時間は柔軟に対応するべきではないか